

学年	教科	科目	教科書名	副教材名	単位
高3 特別進学	国語	古文研究	精選古典探究 古文編 (東京書籍)	下記参照	2

1. 授業のねらい

- ・高校1・2年次で学習した古文読解に必要な基本的事項の確認及び、総復習を行います。
- ・共通テストや私大入試、国公立大二次試験に対応すべく、多様なジャンルの文を扱い、且つ、それら作品を通じて、具体的な読解の手法を学び、いかなる文章にも対応できるだけの実践力・応用力の養成を目指します。
- ・古典作品を通して、日本文化やそれに影響を与えた中国文化に対する理解と関心への深化を行います。
- ・アクティブラーニングを通じて、物事を多面的・多角的な視点から解釈する力を養います

2. 授業のすすめ方

- ・教科書本文を中心に据えながらも、学習者の習熟に応じて適宜、資料集やデジタル教材を活用しながら授業を行います。
- ・授業は【導入】→【展開（予習に沿った発問・板書）】→【まとめ・確認】を基本にして展開します。
- ・授業で演習問題を取り扱う際は、①問題を解く⇒②解説（具体的な読解の手法の提示）⇒③答えあわせ・まとめという流れで進めていきます。
- ・ipadを使用し、ロイロノートやClassiを用いて、適宜、学習者の理解度を確認するための双方向性授業を行います。
- ・授業の理解度を深めるため、各自でスタディサプリによる講義動画の活用を推奨します。

3. 学習上の留意点

- ・ノートまたは教科書・テキスト・配布プリントに、板書事項や口頭で説明したことを記録し、学習に役立ててください。
- ・学習内容の定着を図るために、調べること・復習すること・質問すること（アクティブラーニング）を心がけて下さい。
- ・古語辞典・文法書・資料集等を活用しながら、入試問題を解く際の読解力がつくように古文・漢文を読んでいきましょう。

4. 副教材・参考文献

- ・『新国語総合ガイド 五訂版』（京都書房） ※ 予習・復習・授業で使用（3年間使用）
- ・『基礎から学ぶ解析古典文法』（桐原書店） ※ 予習・復習・授業で使用（3年間使用）
- ・『読んで見て覚える重要古文単語』（桐原書店） ※ 予習・復習・授業・使用（3年間使用）
- ・『大学入試 国語頻出問題1200』（いっずな書店） ※ 小テスト教材として使用（1年間使用）
- ・必要に応じて各種プリント、デジタル教材を使用します。

5. 評価の視点・テスト・課題等

- ・定期考査、小テスト、提出物、ロイロノートやClassiの提出課題等で判断します。
- ・定期考査では授業内容を理解しているか、応用力がついているかを問います。（「古文」として、100点満点で実施）
- ・小テスト（重要な古文単語・文法事項などに関して）を実施して、平常点として評価します。
※範囲および実施日については、別に配布する予定表を参照してください。
- ・平常点は1学期20点、2学期10点で評価します。
- ・長期休暇中の宿題などについても、提出や定期考査範囲での出題により、評価の対象とします。

6. 定期考査

- ・授業で学習したことを中心に出題します。授業で扱った文章に関する文法事項や文学史といった知識問題も出題し、「古文研究」として100点満点のテストを実施します（年3回実施予定）。
- ・初見の本文による応用問題も出題します（副教材や入試と模試の問題による出題、既習の内容に関連する問題など）。
- ・定期考査は、教科書・テキストの説明で使用した各種資料や、授業で行った説明などを十分に把握しておいて下さい。
- ・使用したプリントやデジタル教材などの授業に関わる全ての資料を把握しておきましょう。

※ 状況によって内容の変動が生じる場合があります。

7. 授業計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標
一 学 期	4	・日記 ・評論	口語訳・内容読解及び、重要古語や文法事項の確認を発問によって行う	用言の活用の徹底理解 助動詞の意味と接続の確認 紛らわしい語の識別 敬語に関する知識の定着
	5	(中間考査)	小テストで見られる習熟状況を日常の取り組みとして評価する	敬意の対象の確認 登場人物の正確な把握 的確な口語訳文の作成
	6	・物語 ・俳諧	授業ノート、各種プリントや課題の提出を評価する	背景や古典常識の確認 和歌の修辞と解釈 文学史の整理
	7	(期末考査)	定期考査 (中間・期末考査)	
二 学 期	9	・説話 ・近世小説	口語訳・内容読解及び、重要古語や文法事項の確認を発問によって行っていく。	既習の学習項目の最終点検 社会背景や文化的側面への考察をふまえた多角的な視点での作品理解
	10	○問題演習 ・大学入試の過去問を解き、その解説を行う ・古典文学史 (中古・中世・近世の文学作品)	授業ノート、各種プリントや資料の提出。	「問題演習」 古文分野における問題解法の習熟
	11		定期考査 (期末考査)	解答時間の配分 問題解答のための知識・技能の拡充 出題意図への理解と、解答の根拠の確認
	12	(期末考査)		
三 学 期	1			
	2			
	3			

※シラバスの内容は進度によって変更する場合があります。